

一光地区の誇り

限界集落に隠れた宝あり

水芭蕉は山地帯から亜高山帯の湿原など冷涼な気候に分布し、この場所に自生するのは全く不思議な気もするが、これは第四紀の氷河期の頃、氷河の先端に乗って南下し、その後気温が温暖になって退去するときに取り残され、かろうじて生き残ったものである。このような植物を残存種（遺存種の植物）といい、非常に貴重なものであるにもかかわらず、昭和45年頃福井新聞に掲載されるまでは、地元の住民はどこにでもある植物としか思っていなかったようだ。現在では取立山の福井県側の群生地は既に絶滅してしまったようだが、一光地区ではこの貴重な宝を大切に保護していきたいと考えている。



五太子町には落差20メートルの滝があり、夏場は他地域より約10℃程度涼しく別界である。国道183号線と駐車場からは、アルミの手摺が新調されどちらからも簡単に見学ができる。ぜひ一度、全身にマイナスイオンのシャワーを満喫しに行ってみてはいかが。

昭和62年頃までは地区の老人会や一光校の児童たちが丹精を込めて整備していた。当時は500株以上あったが、今では100株以下に減少、今や群生地とは名ばかりである。県内外に同じDNAの物が移植されたのであれば大変残念である。



一光公民館 主事
竹内 慶一さん

平成22年7月から一光公民館主事に就く。一光地区を良くしたいという気持ちを原動力に、高齢者を対象にした教育事業や地域の宝に関する研究に熱心に取り組んでいる。

一光公民館

住 所／福井市下一光町6-5
電 話／0776-37-0168
交通機関／JR「福井駅」から車で40分